



新国立劇場 2025/2026 シーズンオペラ



令和7年度(第80回)文化庁芸術祭主催公演

アルバン・ベルク
ヴォツェック **新制作**

Wozzeck / Alban Berg

2025年11月15日(土)～11月24日(月・休)

会場:新国立劇場オペラパレス 2025年9月13日(土) 10:00～ 前売開始

**孤独と狂気と絶望が交差する 20 世紀オペラの金字塔 ベルク『ヴォツェック』**

大野和士芸術監督が注力する 20 世紀オペラから、ベルクの『ヴォツェック』を巨匠リチャード・ジョーンズの新演出で新制作します。アルバン・ベルクのオペラ『ヴォツェック』は、貧困にあえぐ兵士ヴォツェックの苦悩と破滅を前衛的に描き、社会の歪みを観る者に突き付ける衝撃的な作品で、100 年前、1925 年ベルリンでの初演後、20 世紀オペラの金字塔として今日まで世界中で上演が繰り返されている傑作です。原作はゲオルク・ビューヒナーの未完の戯曲『ヴォイツェック』。貧困の底に生き、周囲から搾取され虐げられる一兵士ヴォツェックが妻の不倫を機に転落していく物語が、演劇的、音楽的緊張感の張りつめる中で一気に語られます。ベルクは緊張感漲る無調音楽をベースとしながら、叙情性にも富む音楽でヴォツェックと妻マリーの苦しみを描き、観る者の胸を揺さぶります。ファン待望、この秋随一の注目公演です。

カリスマ演出家リチャード・ジョーンズ×大野和士のもと最強の歌手陣が集結

演出のリチャード・ジョーンズは英国が生んだ巨匠にしてカリスマ演出家。高度な演奏技術が要求される難役ヴォツェック役には、新国立劇場で 2009 年にも同役を歌った世界的スター歌手、トーマス・ヨハネス・マイヤーが登場します。大尉役にはキャラクター・テノールの世界最高峰アーノルド・ベズイエン、鼓手長には同役を特に得意とするジョン・ダザック、マリー役にはドラマティックな表現で活躍するジェニファー・デイヴィスが新国立劇場初登場。指揮は大野和士芸術監督が自らあたります。

< 資料のご請求、取材のお問い合わせ >

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当: 高梨木 綿子

Tel: 03-5352-5733 / Fax: 03-5352-5709 / E-Mail: takanashi_y1307@nntt.jac.go.jp

孤独が男を蝕み、狂気が支配する——その破滅から目が離せない！

新ウィーン楽派の作曲家アルバン・ベルクが唯一完成させたオペラ『ヴォツェック』は、貧困にあえぐ兵士の精神的不安を描き、貧困と差別や搾取が人間を破滅させていく様をまざまざと伝える衝撃的作品。原作はゲオルク・ビューヒナー（1813～1837）が執筆した未完の戯曲で、1821年にライプツィヒで起きた殺人事件の加害者ヴォイツェックの精神鑑定の記録をもとに書かれました。1914年にウィーンで上演された演劇を観たベルクは音楽化への強い衝動を覚えます。翌年第一次世界大戦に徴兵され、除隊後1917年から21年になって作曲した『ヴォツェック』は、自身の厳しい軍隊生活の経験も重ねて書かれたと言われています。

ベルクはシュプレヒゲザング、シュプレヒシュティンメと言われる歌と語りの中間の技法を使い、演劇的緊張感が張り詰める中で、貧困から逃れられない男が妻の不倫をきっかけに転落していく物語を一気に語ります。パロックや古典派音楽の形式を模し、ポルカやワルツまで取り入れた多様な音楽を用いて緻密に構築された全3幕各5場がスピーディーに展開し、前衛的かつ叙情的な音楽が観る者の心を掴み、揺さぶります。

大野和士芸術監督が上演に注力する20世紀オペラ。この秋、新国立劇場から誕生する『ヴォツェック』に期待が高まります。

今秋の必聴オペラ！最高のヴォツェック歌いとカリスマ演出家による新制作『ヴォツェック』

演出を手掛けるのは、英国が生んだカリスマ演出家リチャード・ジョーンズ。オリヴィエ賞に9回輝き、サウスバンク・ショー・アワードやトニー賞、Opernwelt 最優秀演出家賞など数々の受賞歴を誇る巨匠です。新国立劇場へは2008年『ムツェンスク郡のマクベス夫人』（英国ロイヤルオペラからのプロダクションレンタル）以来の登場で、東京で新演出を手掛けるのは初となります。

高度な演奏技術が要求される難役ヴォツェック役には、新国立劇場で2009年にも同役を歌った世界的スター、トーマス・ヨハネス・マイヤーが出演。マイヤーは今年2025年2月新国立劇場『フィレンツェの悲劇』ではシモーネを歌い、屈折した情念の滲む圧巻の表現で60分間聴衆を釘付けにして、喝采をさいました。20年以上歌いこんでいるヴォツェック役、熟練のカムバックに期待が募ります。



2009年『ヴォツェック』
撮影：三枝近志

2025年『フィレンツェの悲劇』
撮影：堀田力丸



左上より大野和士、R.ジョーンズ、T.ヨハネス・マイヤー、J.ダザック
伊藤達人、A.ベズイエン、妻屋秀和、J.デイヴィス

共演する大尉役にはキャラクター・テノールの世界最高峰アーノルド・ベズイエンが2022年『ボリス・ゴドゥノフ』に続く登場。鼓手長には同役を特に得意とするイギリスのテノール、ジョン・ダザック、マリー役にはワーグナーを中心にドラマティックな表現で活躍するジェニファー・デイヴィスが出演します。

医者役に日本の誇るバス歌手・妻屋秀和、アンドレスには旬のヘルデン・テノールとして大活躍中の伊藤達人と、国内歌手陣もオペラファン垂涎の陣容です。指揮は大野和士芸術監督が自らあたります。

芸術監督・大野和士からのメッセージ

新制作でお届けするベルクの『ヴォツェック』は、1925年に初演され、今年は初演からちょうど100年の区切りの年です。音楽、物語共に、私たちの内面に深く強く入ってくるもので、今こそ聴きたい作品です。夭折した作家ビューヒナーが、1830年代に実際に起きた殺人事件を題材に、社会の底辺で精神を病み、内縁の妻を殺して破滅していく男を描いた原作を、1世紀近く経ってベルクが無調音楽で作曲したオペラです。

新演出に臨むのは、巨匠リチャード・ジョーンズ。私は音楽監督を務めていたモネ劇場での『炎の天使』、スカラ座の『ムツェンスク郡のマクベス夫人』で一緒に仕事する機会に恵まれましたが、緻密でありながら、それをはるかに超越したエネルギーによって観る者を劇場空間の心理劇に引きずり込む手腕は、本当に圧巻でした。今回も狂気をテーマにした心理劇をリチャードがどう描いていくのか、私自身も大変楽しみです。ヴォツェック役はトーマス・ヨハネス・マイヤー、マリーにジェニファー・デイヴィス、鼓手長にジョン・ダザック、大尉はアーノルド・ベズイエンと当代随一と言える歌手が集まります。



<あらすじ>



理髪師から兵士になった実直な男、ヴォツェックは内縁の妻マリーとの間に生まれた一人息子と貧しい暮らしを送っている。上官の大尉や誇大妄想気味の医者にへつらって生活をつないでいる彼の精神状態は不安定で、妄想に苛まれていた。夫との生活に疲れたマリーは、鼓手長との不倫という泥沼に嵌っていく。妻に不審を抱きながらも鼓手長に敵わず、自暴自棄に陥るヴォツェック。自らの罪を悔いて神に祈るマリーをヴォツェックの凶刃が襲う。

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】大野和士

ONO Kazushi

東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、モネ劇場音楽監督、トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督(2018年～)及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンド管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のオペラを指揮。新作初演にも意欲的で数多くの世界初演を成功に導く。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。新国立劇場では『魔笛』『トリスタンとイゾルデ』『紫苑物語』『トゥーランドット』『アルマゲドンの夢』『ワルキューレ』『カルメン』『スーパーエンジェル』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドゥノフ』『ラ・ボエーム』『シモン・ボッカネグラ』『ウィリアム・テル』を指揮している。本年8月に『ナターシャ』を、25/26シーズンは『ヴォツェック』『エレクトラ』を指揮する予定。



【演出】リチャード・ジョーンズ

Richard JONES

ロンドン出身。国際的な舞台で30年以上に渡りオペラや演劇の演出を手掛ける演出家。英国ロイヤルオペラ『ラ・ボエーム』『ボリス・ゴドゥノフ』『ニーベルングの指環』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『子どもと魔法』『賭博者』『アンナ・ニコル』『三部作』、イングリッシュ・ナショナル・オペラ(ENO)『The Plumber's Gift』『3つのオレンジへの恋』『ルル』『トロイ人』『カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師』、ワシントン・ナショナル・オペラ/ENO『ヘンゼルとグレーテル』『スペードの女王』『ヴォツェック』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』などのほか、グラインドボーン音楽祭、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、エクサン・プロヴァンス音楽祭、オランダ国立オペラ、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、フランクフルト歌劇場などでオペラを演出。オリヴィエ賞に9回輝き、最近では英国ロイヤルオペラ『アルチーナ』で同賞を受賞。英国ロイヤルオペラ『カーチャ・カバノヴァー』、ENO『ラインの黄金』でサウスバンク賞受賞。最近の演出作品に、シアター・ロイヤル・バス/オールド・ヴィック・シアター『Machinal』、シアター・ロイヤル・バス『The Birthday Party』、パーク・アヴェニュー・アーモリー『Judgment Day』、オールド・ヴィック・シアター『Endgame』がある。新国立劇場へは『ムツェンスク郡のマクベス夫人』以来2回目の登場。



【ヴォツェック】トーマス・ヨハネス・マイヤー(バリトン)

Thomas Johannes MAYER

ケルン音楽大学で声楽を学ぶ。2008年ミラノ・スカラ座『ヴォツェック』タイトルロール、09年同劇場『ドン・カルロ』ロドリゴを皮切りに国際的に活躍し、オランダ国立オペラ、モネ劇場、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、チューリヒ歌劇場、バイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭などに、『サロメ』ヨハナーン、『アラベツラ』マンドリカ、『パルジファル』アムフォルトス、『ローエングリン』テルラムント、『ニーベルングの指環』ヴォータン/さすらい人など、シュトラウスとワーグナーを中心に出演を重ねる。最近の主な出演に、新国立劇場、ベルリン・ドイツ・オペラでのハンス・ザックス(ロールデビュー)、ライプツィヒ歌劇場、ボローニャ歌劇場の『ニーベルングの指環』ヴォータン/さすらい人、バイロイト音楽祭、ライプツィヒ歌劇場、ハンブルク州立歌劇場での『さまよえるオランダ人』オランダ人など。新国立劇場へは09年『ヴォツェック』タイトルロールでデビューし、『アラベツラ』マンドリカ、『さまよえるオランダ人』オランダ人、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・ザックス、『フィレンツェの悲劇』シモーネに出演している。



【鼓手長】ジョン・ダザック(テノール)**John DASZAK**

イギリス出身。多彩な声とドラマティックで力強い表現で知られ、世界の主要劇場で活躍。パイロイト音楽祭に『ラインの黄金』ローゲ、ベルリン州立歌劇場へ『ヴォツェック』鼓手長、ミラノ・スカラ座へ『ピーター・グライムズ』タイトルロール、メトロポリタン歌劇場へ『ビリー・バッド』ヴェール大尉役でデビュー。最近の出演作にチューリヒ歌劇場『烙印を押された人々』、ザルツブルク音楽祭／パリ・オペラ座『ヴォツェック』、ザクセン州立歌劇場『画家マティス』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』など。『サロメ』ヘロデは英国ロイヤルオペラでデビュー後、エクサン・プロヴァンス音楽祭、チューリヒ歌劇場、パリ・オペラ座でも演じ好評を博す。ほかにエクサン・プロヴァンス音楽祭『ヤコブ・レンツ』、英国ロイヤルオペラ『エレクトラ』、チューリヒ歌劇場『ボリス・ゴドゥノフ』、パリ・オペラ座『ホヴァンシチナ』などに出演。バイエルン州立歌劇場には『小人』『ヘンゼルとグレーテル』『烙印を押された人々』『ヴォツェック』などに出演を重ねる。2024/25 シーズンはジュネーヴ大劇場、チューリヒ歌劇場『サロメ』、バイエルン州立歌劇場『カーチャ・カバノヴァ』、ナポリ・サン・カルロ劇場、ハンブルク州立歌劇場『エレクトラ』エギスト、ローマ歌劇場『囚われ人』に出演。新国立劇場初登場。

**【アンドレス】伊藤達人(テノール)****ITO Tatsundo**

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第 14 期修了。文化庁在外研修員としてベルリンにて研鑽を積む。二期会『パルジファル』タイトルロール、『影のない女』皇帝、『イオランタ／くるみ割り人形』ヴォデモンに出演。日生劇場では『ヘンゼルとグレーテル』魔女、『ランメルモールのルチア』アルトゥーロで出演。オペラのほか、15 年新国立劇場演劇制作ミュージカル『パッション』にトラツソ中尉で出演。新国立劇場オペラ公演では『夜鳴きうぐいす』漁師、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ダーヴィット、『こうもり』アルフレード、『さまよえるオランダ人』舵手に出演している。25/26 シーズンは『ヴォツェック』アンドレス、『こうもり』アルフレードに出演予定。二期会会員。

**【大尉】アーノルド・ベズイエン(テノール)****Arnold BEZUYEN**

オランダのテノール。アムステルダムで学んだ後、ウィーン国立歌劇場で『蝶々夫人』ピンカートン、『ナブッコ』イズマエーレ、『オテロ』カッシオ、『椿姫』アルフレード、『魔笛』タミーノ、『さまよえるオランダ人』エリック、『ニーベルングの指環』ジークフリート、ミーメ、ローゲなどに出演。特に『ニーベルングの指環』ミーメ、ローゲ、『サロメ』ヘロデで成功を収め、重要なレパートリーとなる。1998 年にはパイロイト音楽祭にローゲ役でデビューし、同音楽祭へはその後 18 年間出演を続ける。ほかに、オランダ国立オペラ、バルセロナ・リセウ大劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、ウィーン国立歌劇場など世界の主要劇場に出演している。新国立劇場では『ボリス・ゴドゥノフ』シュイスキー公に出演した。

**【医者】妻屋秀和(バス)****TSUMAYA Hidekazu**

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001 年ライブツィヒ歌劇場、02 年～11 年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R. シュトラウス等のオペラの主要な役を 100 役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『リゴレット』スparaフチーレ、『ドン・カルロ』宗教裁判長／フィリッポ二世、『ラインの黄金』ファールツト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンド、『タンホイザー』領主ヘルマン、『トウランドット』ティムール、『夏の夜の夢』クインス、『イオランタ』ルネ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・フォルトツ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵、『ペレアスとメリザンド』アルケル、『夢遊病の女』ロドルフォ伯爵、『ウィリアム・テル』ジェスレルなど出演多数。芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2024 年紫綬褒章受章。

**【第一の徒弟職人】大塚博章(バス)****OTSUKA Hiroaki**

玉川大学芸術学科音楽専攻卒業。第 42 回伊声楽コンクール 3 位。文化庁派遣芸術家在外研修員としてドイツに留学。びわ湖ホール『シチリアの晩鐘』、二期会で近年では『魔笛』ザラストロ、『ばらの騎士』オックス男爵などに出演。新国立劇場では『サロメ』2 人の兵士 1、『トスカ』シャルローネ、『ドン・カルロ』修道士、『マノン・レスコー』軍曹、『魔笛』武士 II、『タンホイザー』ラインマル、『ジャンニ・スキッキ』シモーネ、『夏の夜の夢』シーシアス、『イオランタ』バルトラン、『ばらの騎士』警部、『ボリス・ゴドゥノフ』ミチューハ、鑑賞教室『カルメン』スニガ、コンサート・オペラ『ペレアスとメリザンド』アルケル、『ジークフリート』ハイライトコンサート「さすらい人」などに出演。二期会会員。



【第二の徒弟職人】萩原 潤(バリトン)**HAGIWARA Jun**

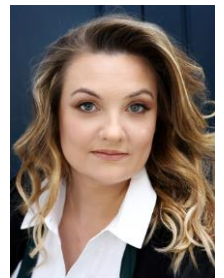
東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。ベルリン・ハンス・アイスラー音楽大学大学院で学ぶ。二期会オペラスタジオ修了。文化庁派遣芸術家在外研修員として渡独。第14回五島記念文化賞新人賞受賞。これまでに『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ベックメッサー、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵およびフィガロ、『サロメ』ヨカーナ、『こうもり』アイゼンシュタインなどに出演。新国立劇場では『トゥーランドット』ピン、『アラベッラ』ドミニク伯爵、『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ラ・ボエーム』ショナール、『ローエングリン』王の伝令、『魔笛』パパゲーノ、『ヴォツェック』第二の従弟職人、『イエヌーファ』粉屋の親方、『松風』須磨の浦人、『タンホイザー』ピーテロルフ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『フィガロの結婚』フィガロなどに出演。二期会会員。

**【白痴】青地英幸(テノール)****AOCHI Hideyuki**

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。これまでに『魔笛』タミーノ、ロッシェニ『オテロ』ロドリゴ、『ロメオとジュリエット』ロメオ、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『カルメン』ドン・ホセなどを演じている。宗教曲ソリストとしても活躍。新国立劇場では『おさん』『ホフマン物語』『ばらの騎士』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『ヴォツェック』『サロメ』『ファルスタッフ』『ジャンニ・スキッキ』『夏の夜の夢』『フィガロの結婚』『夜鳴きうぐいす』『ボリス・ゴドゥノフ』『子どもと魔法』『こうもり』『トリスタンとイゾルデ』『ジークフリート』ハイライトコンサートなど多数出演。25/26 シーズンは『ヴォツェック』白痴、『こうもり』プリント博士に出演予定。成城大学合唱部ヴォイストレーナー。公津の杜男声合唱団指導者。コールベガサス・ヴォイストレーナー。足利オペラ・リリカ専属アーティスト並びに研究科講師。武蔵野音楽大学講師。

**【マリー】ジェニファー・デイヴィス(ソプラノ)****Jennifer DAVIS**

アイルランドのケア出身。センセーショナルなデビューが続き、その輝くような銀色の声色と劇的な表現で国際的注目を集める。英国ロイヤルオペラのジェット・パーカー・ヤング・アーティスト・プログラムに参加し、ロイヤルオペラで『ローエングリン』エルザ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、『魔笛』侍女 I、『ポントの王ミトリダーテ』アルパーテ、『イル・トロヴァトーレ』イネスなどに出演。『ローエングリン』エルザで特に高い評価を獲得しており、同役を英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、シュトゥットガルト歌劇場、フランダース・オペラで歌っている。最近の出演作には、ウィーン国立歌劇場『フィデリオ』レオノーレ、ザクセン州立歌劇場『ラインの黄金』フライア、イングリッシュ・ナショナル・オペラ『ワルキューレ』ヘルムヴィーゲ、アイルランド国立歌劇場『魔笛』パミーナ、オペラ・ノース『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、イングリッシュ・ナショナル・オペラに『イエヌーファ』タイトルロール、アイルランド国立オペラ『ファウスト』マルグリートなどがある。24/25 シーズンは、英国ロイヤルオペラ『フィデリオ』レオノーレ、ベルリン・ドイツ・オペラへ『アラベッラ』タイトルロール、『ローエングリン』エルザに出演。本年 10 月にはジュネーヴ大劇場『タンホイザー』エリーザベトに出演予定。新国立劇場初登場。

**【マルグレート】郷家暁子(メゾソプラノ)****GOKE Akiko**

東京藝術大学、同大学院オペラ専攻首席修了。学部卒業時に同声会賞、アカンサス音楽賞受賞。二期会オペラ研究所マスタークラス修了時、優秀賞及び奨励賞を受賞。藝大オペラ定期公演『皇帝ティートの慈悲』セストでデビュー。これまでに、『アポロンとヒヤキントス』アポロン、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『カルメン』タイトルロール、日生劇場『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル、二期会『アルチーナ』ブラダマンテ、『金閣寺』娼婦、『修道女アンジェリカ』修練女長、『ルル』ギムナジウムの学生、『こうもり』オルロフスキー、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『パルジファル』小姓／花の乙女、東京・春・音楽祭『ローエングリン』小姓に出演。二期会会員。新国立劇場では『修道女アンジェリカ』修道女長、『エウゲニ・オネーギン』ラーリナに出演した。



新国立劇場 2025/2026 シーズンオペラ
令和7年度(第80回)文化庁芸術祭主催公演
アルバン・ベルク
ヴォツェック<新制作>
Wozzeck / Alban Berg
全3幕<ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付>

【公演日程】2025年11月15日(土)14:00/18日(火)14:00/20日(木)19:00/22日(土)14:00/24日(月・休)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:29,700円・A:24,200円・B:17,600円・C:11,000円・D:7,700円・Z:1,650円

【前売開始】2025年9月13日(土)10:00～

※予定上演時間 約1時間35分(途中休憩なし)

指揮	大野和士	ヴォツェック	トーマス・ヨハネス・マイヤー
Conductor	ONO Kazushi	Wozzeck	Thomas Johannes MAYER
演出	リチャード・ジョーンズ	鼓手長	ジョン・ダザック
Production	Richard JONES	Tambourmajor	John DASZAK
美術・衣裳	アントニー・マクドナルド	アンドレス	伊藤達人
Set and Costume Design	Antony McDONALD	Andres	ITO Tatsundo
照明	ルーシー・カーター	大尉	アーノルド・ベズイエン
Lighting Design	Lucy CARTER	Hauptmann	Arnold BEZUYEN
ムーヴメント・ディレクター	ルーシー・バージ	医者	妻屋秀和
Movement Director	Lucy BURGE	Doktor	TSUMAYA Hidekazu
		第一の徒弟職人	大塚博章
		1. Handwerksbursch	OTSUKA Hiroaki
		第二の徒弟職人	萩原 潤
		2. Handwerksbursch	HAGIWARA Jun
		白痴	青地英幸
		Der Narr	AOCHI Hideyuki
		マリー	ジェニファー・デイヴィス
		Marie	Jennifer DAVIS
		マルグレート	郷家暁子
		Margret	GOKE Akiko

合唱指揮	富平恭平
Chorus Master	TOMIHIRA Kyohei
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
児童合唱	TOKYO FM 少年合唱団
Children Chorus	TOKYO FM Boys Choir
管弦楽	東京都交響楽団
Orchestra	Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

芸術監督	大野和士
Artistic Director	ONO Kazushi

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/wozzeck/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)
新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* Z席 1,650円: 公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。